

第92回 全国安全週間を迎えて

平塚労働基準監督署長 池田 有他

令和となった本年も「新たな時代に P D C A みんなで築こう ゼロ災職場」をスローガンに6月を準備期間、7月1日から7日までを本週間として昭和3年から連続で行われ、第92回を迎える全国安全週間が展開されます。

この間、各事業場では労使が協調して労働災害防止活動が展開されてきた結果、労働災害は着実に減少し、昨年の全国の労働災害による死亡者数は全産業で909人と4年連続で1,000人を下回っております。

一方、休業4日以上之死傷者数は、長期的には大幅に減少してはいるものの、全産業で127,329人と3年連続で前年を上回りました。

平塚労働基準監督署管内につきましては、平成30年の休業4日以上之死傷災害の被災者は536人で、この10年間では最悪、20年間では平成17年の554人に次ぎ多くなってしまいました。20年間の平均発生数と比較すると13.8%多いことになり、非常に残念な結果でございました。

このような労働災害の多発傾向を受け当署といたしましては、貴支部をはじめ各方面と協力し労働災害防止に対する呼びかけを行っているところですが、個々の事業場にしてみれば統計数値よりも、「労働災害は1件も起こさない」という信念でやっておられることと思います。

さて、この平塚地区で労働災害を更に減少させていく、あるいは個々の事業場で労災を発生させないためには、その手法が重要です。まず、事故の傾向の情報ですが厚生労働省・神奈川労働局・平塚労働基準監督署では事故の分析を行い、各方面に提供しているほか、各種労災防止の手法もそれぞれのホームページに掲載しますし、各種書籍類も様々なところから出されております。個々の事業場にある

経験や知識だけではどうしても不足する情報が、今や簡単な方法で入手が可能です。

労働災害の種類で一番多いのは転倒で全体の四分の一を占め、腰痛などの動作の反応・無理な動作や墜落・転落を合わせますと全体の半分以上を超えます。もちろん業種、年齢別、性別、経験別の傾向もありますがこれらの傾向が分かれば手を打ちやすくなりますので情報を大いに活用してください。

また、今年特に申し上げたいのは、熱中症対策です。皆様も身をもって感じておられるのではと思いますが、昨年は記録的な猛暑でした。それに呼応して熱中症による救急搬送は例年の倍以上であり、労災も同じく倍以上になっております。職場における熱中症による神奈川の死亡者は、昨年過去最多の4人にのぼりました。熱中症と転倒災害については3ページで触れますので、参考にしてください。

これらの対策を講じるに当たっては情報の入手に続き、週間のスローガンの「P D C A (プラン→ドゥ→チェック→アクションのサイクル)」はどうしても必要なものと思います。英語になるとどうも難しそうに思う人もおられますが、事業場でのお仕事でも同様のプロセスは踏んでおられるはずです。その積み重ねがあって同じ過ちはしなくなり、定着していくものと思います。

会員事業場におかれましては、全国安全週間を機に経営トップによる安全への所信表明、職場の総点検等各種行事や取組みを行うことで労働災害防止の重要性の認識をさらに深めていただき、安全文化を醸成するための安全衛生活動を引続き推進していただければ幸いです。

令和元年度 全国安全週間スローガン

新たな時代に P D C A みんなで築こう ゼロ災職場

全国安全週間 平塚地区促進大会

「新たな時代にPDCA みんなで築こうゼロ災職場」のスローガンのもとに、去る6月14日(金)平塚市中央公民館大ホールにおいて、「第92回全国安全週間平塚地区促進大会」が開催されました。

昭和3年から、「人命尊重」という基本理念の下、広く一般の安全意識の高揚と安全活動の定着を図ることを目的として開催されている歴史あるイベントです。

湘南鼓連の迫力ある太鼓演奏で始まり、当協会平塚支部長の松野様、平塚労働基準監督署長池田様、当協会常務理事村下様のご挨拶で始まり、労働基準監督署安全衛生課長高橋様より本週間の趣旨・実施事項、労働災害発生状況等について説明をいただきました。特に平成30年の労働災害の発生状況は県下ワースト1で、各事業者に対して取り組みを強化するようお願いいたします、とのことでした。

続いて、特別講演として「企業における災害対応」と題して、スリーエムジャパン(株)の片岡克己様より講演をいた

だきました。東日本大震災や他の災害事例をもとに、その実態と教訓について写真や映像をふんだんに使い、自社の企業防災について本当に今のままでいいのかを真剣に考えてください、とのことでした。

(株)藤田電機製作所 小笠原 記



■労働災害発生状況 (労働者死傷病報告件数)

(令和元年5月末現在)

		製造業	食料品 製造業 (製造業の内数)	建設業	道路貨物運送・ 陸上貨物取扱	小売業	社会福祉 施設	飲食店	その他	計
平 塚 労働基準 監 督 署	平成31年1月～5月 うち死亡災害	35 0	(9) (0)	16 0	15 0	16 0	5 0	6 0	44 0	137 0
	平成30年 うち死亡災害	107 0	(32) (0)	55 0	75 0	69 0	50 0	26 0	154 0	536 0
	平成29年 うち死亡災害	82 2	(11) (1)	41 0	54 0	64 0	45 0	24 0	123 1	433 3
神 奈 川 労 働 局	平成31年1月～5月 うち死亡災害	327 0	(108) (0)	247 3	285 1	249 0	163 0	104 0	659 0	2,034 4
	平成30年 うち死亡災害	1,044 6	(285) (0)	727 10	982 2	937 3	634 0	378 0	2,218 13	6,920 34
	平成29年 うち死亡災害	1,022 6	(277) (2)	730 6	925 5	839 2	621 0	364 0	2,050 11	6,551 30



「健康人は歯が命!？」

古河電気工業(株)平塚事業所衛生管理室 眞壁 亜紀子

“芸能人は歯が命”というフレーズのCMを覚えている方いらっしゃいますか？今から24年前の歯磨き粉のCMです。美白歯磨き粉ということで爆発的に売れ、今でも人気商品だそうです。

さて、最近の歯磨き粉のCMはというと“歯周病予防”がキーワードのような気がします。

日本人の歯を失う原因の1位は“歯周病”です。その歯周病に、なんと成人の約7～8割がかかっていると言われています。

歯を含む口の健康は、全身の健康と深い関係があります。例えば、生活習慣病である糖尿病は、歯周病を悪化させ、歯周病は糖尿病を悪化させます。歯を失って良く噛むことが出来ないと、過食になり肥満になりやすくなります。さ

らには、アルツハイマー型認知症を引き起す原因に、歯周病が関係していることもわかってきたそうです。このような背景から、2018年4月から特定健康診査(いわゆるメタボ健診)の間診に「かむこと」についての項目が追加されました。

歯周病予防には、日々自分で行う歯磨きなどのセルフケアの他、定期的な歯科医院などでのプロフェッショナルケアが不可欠です。

「人は足から老いる」とはよく言いますが、実は「人は口からも老いる」とも言えるようです。そう考えると、人生100年時代の現在は、“健康人は歯が命”ではないでしょうか？

夏季に向けて熱中症対策万全ですか？

昨年は、記録的な猛暑となりましたが、神奈川県内で熱中症による死亡災害が過去最多の4名となり、当署管内でも多数の労災請求があり、熱中症予防対策を徹底するよう呼びかけています。

厚生労働省では、5月から「クールワークキャンペーン」を実施しており、暑さ指数(WBGT値)を把握し、休憩場所の整備や作業時間の短縮、定期的な水分・塩分の補給などの対策がとられているか確認をお願いします。

特に少しでも異常を感じる労働者がいた場合には、①一旦作業を離れる、②病院へ運ぶ(救急車を呼ぶ)③病院へ運ぶまで一人きりにしないことを労働者全員で確認してください。

STOP！熱中症

クールワークキャンペーン

— 熱中症予防対策の徹底を図る —

令和元年5月～9月

4月	5月	6月	7月	8月	9月
----	----	----	----	----	----

準備期間

5/1

キャンペーン期間

9/30

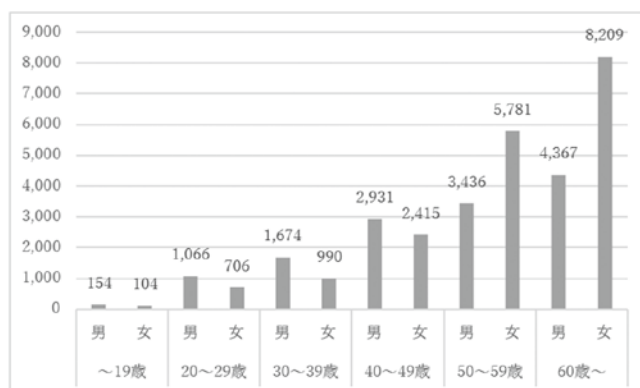
重点取組期間

転倒災害の防止について

当署管内で平成30年に最も多発した事故の型は、転倒災害となりましたが、厚生労働省が令和元年5月17日に発表した労働災害の分析の結果、転倒災害は、業種を問わず増加傾向にあり、当署管内と同様に全体の25パーセント程度(4人に1人)を占め、特に高齢の女性の被災が多く、被災者のうち約

26パーセントが60歳以上の女性であったことが公表されました。60歳代以上では、男性の約2倍発生していますので、転倒防止を図る上で配慮すべきと考えられます。転倒災害防止には、健康づくりが効果的です。

「ころばNICEかながわ体操」をおすすめします。



(単位：人)

図1 転倒災害被災者の性別・年齢別比較



雑感

『朝活の継続』

第一三共株式会社

CMC企画部 CMC 総務・人事グループ 長谷川 敦

『朝活』という言葉が世の中で認知され、【流行もの】となった昨今ですが、私は昔から、今で言う『朝活』を実施していました。もちろん現在も継続しています。気分・気持ちのアップにはお奨めです。

仕事における『朝活』は、静かなオフィスから始まります。人の居ない・電話の音の鳴らない環境で、まずは考え事(企画って言うやつですかね…)からはじめることにしています。頭のすっきりしている／邪魔の入らないうちに片付けるって寸法です。皆さんも実践してみると結構良い結果が出ると思いますのでお奨めですよ。そしてこの流れが定着すると当然、早寝となり熟睡からの健康へと進展して行くかと思っています。私の場合早寝・早起ではなく、【早起だから早寝する】としています。これって結構大事な考え方だと思っています。そして、『朝活Part2』にはなりますが、昼休みには、自席の椅子の背もたれをリクライニン

グ状態にし、目と口をマスクでガードして15分間しっかり昼寝をします。これで、午後もしっかりと活動が出来るということです。

さて、話は戻り、単身赴任も8年目となりました。学生時代も独り暮らしを9年間継続し、その頃も結構早起きしていましたが、今はその時以上に『朝活』を意識しています。

平日の『朝活』は床のモップがけのルーティーン程度であまり体を動かさないバージョンとなっていますが、休日はこれにウォーキングを入れたりします。コンスタントには2時間(12km程度)歩きますが、気分が乗っていると江の島往復コース(4時間半)ってのもやったりします。好天のときは、海岸線のウォーキング・サイクリングロードでの潮風を心地よく感じ、最高の眺望で、更に気分アップです。

皆さんも『朝活』始めてみてはいかがでしょうか？

フルハーネス型安全帯特別教育

6月5日(水)、平塚市勤労会館にて、「フルハーネス型安全帯特別教育」が開催され、56名の方が参加いたしました。

本講習は、高所作業において使用される安全帯について、労働安全衛生法施行令、労働安全衛生規則および関係告示が改正されたことを受け、平塚支部では随時開催されております。申し込み開始後、毎回すぐに満席になる大変好評な講習です。

今回の改正のポイントは、次の三点です。「①安全帯の名称を墜落制止用器具に変更する。②原則、墜落制止用器具はフルハーネス型を使用する。③安全衛生特別教育が必要となる。」

特に、高さが2メートル以上の箇所であって作業床を設けることが困難なところにおいて、墜落制止用器具のうちフルハーネス型のものを用いて行う作業に係る業務に就く

者には、上記の通り、特別教育の受講が義務付けられましたので、事業場の皆様は適切なお対応をお願いいたします。

スタンレー電気(株) 加藤 記



編集後記

今年の5月1日(水)、は30年にわたる平成時代が幕を閉じ、新時代「令和」の幕開けとなる「特別な日」となりました。渋谷駅前スクランブル交差点では大勢の人が集まり、日付が変わる直前には「5、4、3、2、1令和!」と雨が降りしき中カウントダウンも始まり、新年を迎えるかのような大きな賑わいを見せた。

適正なワーク・ライフ・バランスを取り戻す為の重要政

策の「働き方改革」、10月には「消費税増税」、2020年には1964年開催以来、2回目となる東京でのオリンピックも決定している事もあり、年号が令和に変わって間もないというのに話題は豊富です。

皆様に於かれましても、令和時代にそれぞれの思いを巡らせている事と思います。

令和には、人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つという意味もこめられているそうです。

皆様の生活の場に安心安全な環境があり、日々充実していると実感出来る時代であってほしいと期待致します。

日鍛バルブ株式会社 遠藤 記